

# 第70回全国植樹祭お手播き苗贈呈式

2022年(令和4年)3月12日(土曜日) 尾張新聞 愛知 14

## 両陛下が19年に「お手まき」 種子から育った苗木 県が30施設に贈呈

二〇一九年六月二日に尾張旭市の県森林公園を主催会場に開かれた「第七十回全国植樹祭」で、天皇、皇后両陛下が「お手まき」した種子が、植樹に適した苗木に成長した。県はヒノキなど三種を「記念樹」として



「お手まき」の種子から育ったヒノキの苗木を大村知事(中央)から受け取る第二富士幼稚園の園児たち(県公館で)

県内の30施設に計七十七本を配ることとし、十一日に県公館で贈呈式があった。記念樹の育成を通じ、開懐理念の継承を図る狙い。贈呈式には、苗木の受領者を代表して尾張旭市の森和

美市長、名古屋守山区の第二富士幼稚園の清水朱美教頭、年長園児の服部結衣ちゃん、森田芽衣ちゃん、中爽真ちゃんが出席。大村秀章知事からヒノキの苗木を受け取った。大村知事は「かけがえない緑を子どもたちの世代につないでいければ」とあいさつ。森市長らは感謝を示し、園児たちも「小学生になっても木を見に、幼稚園に行きます」などと話した。清水教頭は「園のシンボルツリーになれば」と期待した。

「お手まき」は植樹祭の主要行事の一つ。苗木になるまで県が管理していた。配布先は希望を募った上で決めた。配布する三種はヒノキのほか、県の里山を代表する木で大木に育つアベマキ、「県の木」で、早春に紅色の花をつけるハナノキ。(梅田威晴)

